

群馬 教 七	G05 - 07
	平27.257集
	図画工作

材料や用具の特徴を生かして 発想できる児童の育成

— 試しの活動と気付いたことを
カードに表す活動を生かして —

特別研修員 前島 隆宏

I 研究テーマ設定の理由

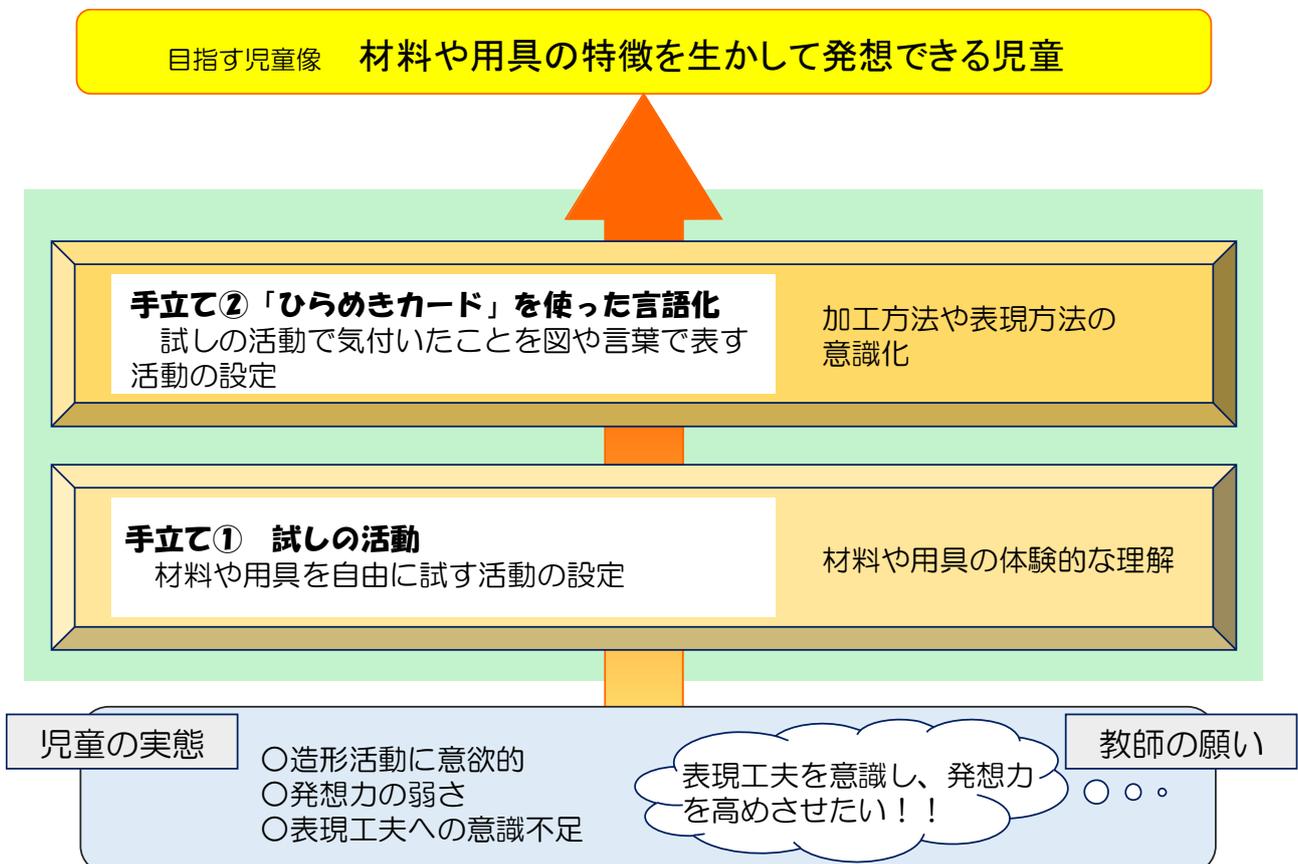
「はばたく群馬の指導プラン」には、群馬県の図画工作科の課題の一つとして「材料の特徴を生かして発想すること」が挙げられており、発想力を高める指導の充実が求められている。

本学級には、造形活動に意欲的に取り組む児童が多い。また、アンケート調査では、「アイデアはすぐに浮かぶ」と大半の児童が答えた。しかし、実際に発想力を見取る実技調査を行ったところ、独創的な発想ができる児童は少ないという結果であった。児童は意識できていないが、教師の視点から見ると、発想することに課題があると感じた。材料や用具の特徴を生かして発想するには、材料や用具に触れる中で自分なりに表現方法を試すとともに、直感的・感覚的に表現したことを客観的に捉え直す時間を確保することが重要である。

そこで、材料や用具を十分に試す試しの活動と、その中で得た気づきを言葉や簡単な図を使ってカードに書き表す活動を設定することで、材料の加工方法や表現方法などに気付いたり、直感的・感覚的に表現したことを意識化したりできるようにし、材料や用具の特徴を生かして発想できるようにしたいと考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

児童の発想力を高めるための手立てとして、以下の二つの活動を取り入れた。

- 材料や用具を自由に試す活動の設定
- 加工方法や表現方法を言葉に表したり、表現のよさを記述したりできる「ひらめきカード」の作成

(1)実践1 題材「立ち上がれ！マイライン」

本題材は、アルミ針金を主たる材料として立体に表す造形活動であり、材料のよさやおもしろさを味わうことができる題材である。アルミ針金の加工方法を理解することで、それらを基に発想が広がると考え、手立てを以下のとおり具体化した。

①アルミ針金に触れ、加工方法を試す活動の設定

導入の段階でアルミ針金の「曲げる」「巻き付ける」「伸ばす」「ねじる」などの加工方法を自由に試し、加工方法を理解できるようにした。

②試しの活動で得た気づきを「ひらめきカード」に表す活動の設定

カードに加工方法を試す活動で表したものを貼り付け、材料の特徴や加工方法、形のおもしろさについて自分なりに気付いたことや考えたことなどを記述する活動を展開した。

実践1の試しの活動において、アルミ針金に自由に触れることでその特徴を理解したり、表現のよさに気付いたりすることにつながった。また、「ひらめきカード」の作成は、自己の表現を客観的に捉えることにつながった。しかし、中には、材料の特徴や加工方法に意識が向かなかった児童もいた。

そこで、試しの活動の際に、材料の特徴や表現のよさに関する言葉掛けを個別に行うとともに、カードに言葉を書くだけでなく、カード上部を長方形に切り抜き穴を開け、気に入った表現を主体的に選択できるように改善し、実践2に取り組んだ。

(2)実践2 題材「かいたり、消したり、こすったり」

本題材は、コンテと消しゴムを主たる材料・用具として絵に表す造形活動であり、材料や用具のよさや美しさを味わうことができる題材である。本題材も実践1と同様に、材料や用具を自由に試し、気付いたことや感じたことをカード化することで表現方法について意識化し、その後の活動において材料や用具の特徴を生かした発想に結び付くと考え、以下のように手立てを具体化した。

①コンテや消しゴムに触れ、表現方法を試す活動の設定

「描く」「こする」「消す」などの表現方法を確認し、様々な表し方を組み合わせて思いのままに試し、表現方法に気付けるようにした。併せて、表現方法のよさを意識できるよう、個別での言葉掛けを積極的に行うようにした。

②気に入った表現を探し、窓付きの「ひらめきカード」に表す活動の設定

上部を長方形に切り抜き穴を開けたカードを用いて、気に入った表現を探す活動を展開した。また、カードの穴から見える部分について、気付いたことや感じたこと、工夫したことなどを言葉で書き表し、意識化できるようにした。

III 研究のまとめ

1 成果

- 材料や用具の特徴を捉え、加工方法や表現方法に気付くためには、題材の導入段階で材料や用具に触れ、おもしろい形をつくったり、様々な表現を試行錯誤しながら試したりすることが有効であった。材料の特徴を理解し加工方法や表現方法に気付いた児童は、それらを基に発想を広げることができた。
- 直感的・感覚的に表現したことを客観的に捉え直し、材料の特徴や加工方法、表現方法などの意識化を図るためには、試しの活動を振り返り、気付いたことを言葉や図に表しカード化した活動が有効であった。また、実践2のような平面作品において、窓付きの「ひらめきカード」で、気に入った表現を探す活動によって振り返りに対する主体性が生まれ、より意識化が促進された。

2 課題

- 試しの活動で、加工方法や表現方法を視点に個別の言葉掛けを行ったが、「表現のよさ」を認める言葉掛けを大切にすると、発想に結び付く意識化がより促進されると考える。

<授業実践>

実践 1

1 題材名 「立ち上がれ！マイライン」 (第5学年・1学期)

2 本題材及び本時について

本題材は、「曲げる」「巻き付ける」「伸ばす」「ねじる」などができるアルミ針金の特徴を生かして、自由な形をつくり上げるものである。自分の思いに応じた形や装飾などを豊かに発想するためには、針金の特徴を生かしてどのような形ができるか、実感を伴って気付かせることが大切である。本時は、本題材の第1時で、材料であるアルミ針金に自由に触れ、材料の特徴や加工方法などを理解し、発想につなげていくことをねらいとしている。そのねらいを達成するために次の手立てを具体化した。

本時の研究上の手立て

- アルミ針金に触れ、加工方法を試す活動の設定
- 試しの活動で得た気づきを「ひらめきカード」に表す活動の設定

3 授業の実際

(1) 授業の導入

「自分にとってのすてきな形をつくろう」という課題を提示し、アルミ針金でどのような表現ができるかを試す活動を行うことを伝えた。また、「曲げる」「巻き付ける」「伸ばす」「ねじる」などの基本的な針金の加工方法を演示した。そして、加工方法を意識するために、試して気付いたことをカードに表し、本学級の「針金すてき図鑑」をつくろうと提案した。

(2) 試しの活動の様子

活動が始まると鉛筆に針金を巻き付ける児童や自由に曲げて形をつくる児童の姿が多く見られた。その後、何本かの針金をつなげて扱ったり、加工方法を組み合わせたりして、自分にとっての素敵な形を進んでつくる姿が見られた。また、一つ作品ができたなら他の表現に進んで取り組むなどの試しの活動の様子から、自由に曲げたり巻き付けたりできるアルミ針金のよさを主体的に味わっていることがうかがえた。



図1 針金の加工方法を試す様子

(3) 「ひらめきカード」の作成 (自己の気づきや加工方法の意識化について)

「ひらめきカード」に表す活動では、できあがった針金の形を見ながら、加工方法や形のおもしろさについて振り返り、言葉や図に表す児童の姿が見られた。また、加工する順序を図解しながら記入する児童もいた。記述内容を基に「ひらめきカード」を分類すると、図2のような傾向が見られた。

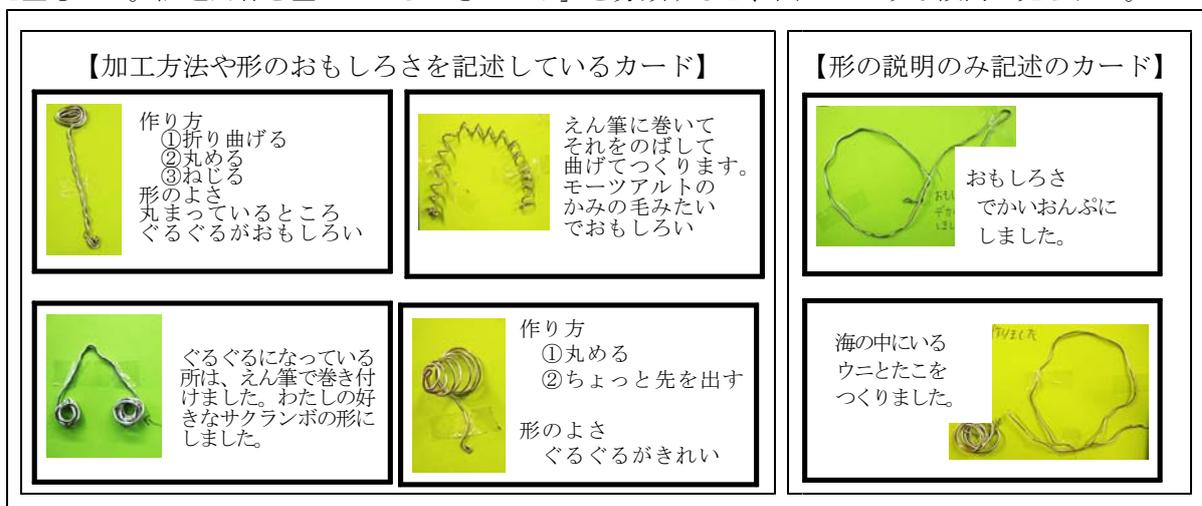


図2 児童が作成した「ひらめきカード」の分類

試しの活動で得た気づきを図2のような「ひらめきカード」に表す活動において、針金の加工方法、形のよさやおもしろさを具体的に記述できている児童は、全体の85%に当たる。また、授業後の意識調査では、「カードに言葉や図を記入したことで、どんなことが学べたか」という質問に対して、表1のような結果が得られた。

表1 授業後の意識調査結果

「針金の特徴が分かった」と答えた児童	31名（全体の94%）
「自分が工夫したところがはっきりした」と答えた児童	24名（全体の73%）
「作品の形のよさがはっきりした」と答えた児童	21名（全体の64%）

以上のことから、試したことをカードに表したことで、多くの児童が材料の特徴に気付いたり、加工方法や表現方法の工夫について明確に意識したりすることができたと言える。

「ひらめきカード」を紹介し合う場面では、自分が思い付かなかった表現を知ることができ、次時からの作品製作に生かそうとする意識がうかがえた。

(4) 事後の取組の様子（完成作品を基に）

試しの活動を行った次時より、立体作品の製作に取り掛かった。前時に製作した「針金すてき図鑑」を提示すると、表現の多様性を改めて感じた児童は、友達のカードを見に行ったり、どうやったのかを聞きに行ったりしながら、自分の作品に生かしていく姿が見られた。完成作品を見ると、「ひらめきカード」に記述したことや友達のカードの記述を基に発想を広げて取り組んだ様子がうかがえた。



図3 針金の特徴を生かした完成作品

4 考察

- アルミ針金の加工方法を試す活動を設定したことで、児童はアルミ針金に自由に触れ、自分にとっての素敵な形をつくろうと試行錯誤しながら取り組むことができた。活動の始めは、教師が導入で演示した加工方法を真似する児童が多かったが、活動が進むにつれ独自性のある表現をしようと夢中になる児童の姿へと変容していった。材料や用具に触れる中で、材料のよさや特徴を感じながら活動できたと言える。
- 授業後の意識調査を見ると、「カードを作成したことで針金の特徴が分かった」と答えた児童が、全体の94%であったことから、「ひらめきカード」に表したことは、直感的、感覚的に行った自己の表現を客観的に捉え、材料の特徴や加工方法などを意識化することにつながったと考える。
- 「ひらめきカード」への記述を分類した結果、形の説明だけでとどまってしまった児童が数名いた。このことから、形づくることを楽しむことはできているものの、材料の特徴や加工方法を意識して活動できていない児童がいたことが分かる。これは、試しの活動で、針金の加工方法を十分意識付けられなかったからだと考える。試しの活動の中で加工方法や表現のよさに対して、称賛しながら言葉掛けをすることで、さらに意識化が図れると考える。

実践 2

1 題材名 「かいたり、消したり、こすったり」 (第5学年・2学期)

2 本題材及び本時について

本題材は、コンテ (パステル) で描いたり、こすったり、消しゴムで消したりしながら、表現方法を工夫して自分がイメージしたことを絵に表すものである。初めて扱うコンテでできる表現を楽しんだり、消しゴムで消して線や面を表すという表現方法に出会い、材料や用具のよさや美しさを味わうことができる題材である。本時は、本題材の第1時で、コンテで描いたりこすったり、消しゴムで消したりする試しの活動を通して、コンテと消しゴムの特徴に気付き、特徴を生かして様々な形を描くことをねらいとしており、そのねらいを達成するために次の手立てを具体化した。

— 本時の研究上の手立て —

- コンテや消しゴムに触れ、表現方法を試す活動の設定
- 気に入った表現を探し、窓付きの「ひらめきカード」に表す活動の設定

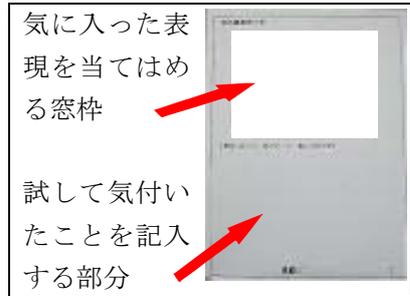


図4 窓付きひらめきカード

3 授業の実際

(1) 授業の導入

コンテや消しゴムでどのような表し方ができるかを見付けるといった課題を提示した。また、気に入った表現を図4のような窓付きの「ひらめきカード」に表し、表現のよさを共有していくことを伝えた。

(2) 試しの活動の様子

まず、授業の導入で教師が演示した「描く」「こする」「消す」を試す児童がほとんどであった。そのうち、重ねて描いたり、コンテの使い方を工夫して線の太さや形のおもしろさを見付けたりしていった。また、表現方法を工夫することについての意識が高まるよう、試しの活動の中で、以下のような言葉掛けを個別に行った。

- T: どうやって描いたの? (表現したことを指さしながら)
 S: (手を動かしながら) こうやったの。
 T: コンテを寝かせて、ひねりながら引くとこうなるんだね。おもしろい。



図5 コンテの表現方法を試す様子

(3) 「ひらめきカード」の作成 (自己の気づきや表現方法の工夫を意識化)

試しの活動で得た気づきをカードに表す活動において、図6で示したような記述があった。

<p>【気付いたこと、感じたこと、試した工夫】 ①</p> <p>左にあるのは、角の平ラツ角のじり、線を引、張て線をひきました。青は、コンテとつけて、なみたところ。下にかいたのは、コンテを寝かして引ました。</p> <p>気付いたこと 一本で何種類ものもようができるようになった。</p>	<p>指でこすった所は、太陽みたいな形になった。</p>	<p>うすくかいたり、こくかいたり、いろんな表し方ができた。指でこすった後、消しゴムで消した。</p>
<p>コンテをコンパスみたいに使ってかいた。</p>	<p>指をひねったりしてかいた。おもしろいもようになった。</p>	

図6 窓付きの「ひらめきカード」と児童の言葉

図6のように、多くの児童が、表現方法の工夫や描いた形の見立て、形のおもしろさなどを素直に書き表していた。このことから、児童一人一人が、自己の表現を振り返り、コンテや消しゴムのよさや表現方法を意識することにつながったと言える。

作成した「ひらめきカード」を小グループや学級全体で紹介し合う活動では、自分が思い付かなかった表現方法を知り、次の活動への意欲が高まった。

(4) 事後の取組の様子（完成作品を基に）

試しの活動で得た気づきを「ひらめきカード」に記入し、学級全員のカードを並べて「コンテ・消しゴム図鑑」を作成した。第2時以降の活動では、この図鑑を参考にしながら、思い思いの作品を描いていった。イメージに合わせて様々な線を描き、消しゴムによる消し跡を楽しみ、指やティッシュを使ってこするなどのコンテと消しゴムの特徴を存分に楽しみながら製作に取り組むことができた。また、四つ切りの画用紙を使った絵画製作では、試しの活動で使用した藍色のコンテを基本とし、様々な色のコンテも用意した。児童の作品を表現方法を視点に分析すると、図7のような二通りの傾向が見られた。



図7 コンテによる絵画完成作品

4 考察

- コンテや消しゴムに触れ、表現方法を試す活動を設定したことで、児童が「描く」「こする」「消す」などの表現方法を確認し、それらを組み合わせて思いのままに表現することができた。ほとんどの児童が自分だけの表現を見付け出そうと意欲的に表現に取り組み、コンテの基本的な表現方法を生かすことができおり、材料に自由に触れる活動の有効性が明らかとなった。また、試しの活動で、教師が意図的に表現方法などに関する言葉掛けを行うことで、意識化を図ることにつながった。
- 窓付きの「ひらめきカード」を使って、自分が試した表現方法の中から、気に入った表現を探し出す活動では、児童一人一人がどこにしようか考えながら取り組んでいた。このことから、本時で試した表現を積極的に振り返り、自己の表現を客観的に見ることにつながったと考える。また、図6のような「ひらめきカード」の記述内容から、気付いたことや感じたこと、工夫したことを言葉に書き表すことで、材料の特徴や表現方法を意識することにつながったと考える。
- グループ内で友達の表現を参考にしながら描いていた児童の姿から、交流することで更に発想が広がる可能性があると感じた。交流の場や共有の場の工夫が今後の課題と言える。